

2014 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	共通学芸科目
-----------	--------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

昨年度からすべてのクラスで授業アンケートを実施することになり、2014 年度の秋学期共通学芸科目では、98.2%（2013 年度秋学期 98.3%）の実施率であった。回答率は、73.8%（2013 年度秋学期 76.5%）であり、若干回答率が減少している。2013 年度秋学期と比べて、以下 4 点の共通学芸科目の全体的な傾向が見える。

- (1) 授業内容理解度、教員の話し方、授業方法の工夫、授業内容とシラバスの一致、知的好奇心に関する項目は平均値 4.0 を超え、全体的に高い。ほぼ昨年度と同じ傾向であり、全学の平均とほぼ同じである。
- (2) 授業中の意欲的な活動、教員の授業に対する配慮の項目も平均値 3.9 であり、全学の平均値と比べるとやや低いが、昨年度秋学期とほぼ同じ傾向を示している。
- (3) 昨年度から授業時間以外の学習時間を一週間に何時間学習したのかを明確し、全学平均と比較したグラフが新たに提示されている。共通学芸の学習時間が 0.23 時間(2013 年度秋学期 0.28 時間)であり、昨年度よりやや減少し、全学平均 0.67 時間よりも低い。内訳として、0 分が 70.4%(2013 年度秋学期 65.5%)という結果であった。
- (4) DWCLA10 の選択率が高いものを上から 3 点挙げると、思考力、分析力、創造力である。思考力が 55.4%(2013 年度秋学期 55.7%)であり、分析力 34.5%(昨年度秋学期 32.6%)、創造力 18.8%（2013 年度秋学期 19.6%）であり、全体的にほぼ同じ傾向を示す。

2014 年度秋学期は 2013 年度秋学期と比べると、ほぼ同じ傾向を示している。昨年度も報告書に書いたが、教務課と教育・研究推進センターで **Active Learning** を推進していることを考えると、授業によっては、もう少し学生が授業に対して何らかの準備をしたり、復習をするような課題等を与えることが重要であるように思われる。そのために、本年度のシラバスに「準備学習（予習・復習）等の内容」という項目を付け加えた。しかし、その成果は現れていないように思える。今後の努力に期待したい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター